

下水道事業の目標達成に 一層の貢献を

財団法人 下水道新技術推進機構 会長
鹿島建設 株式会社 代表取締役社長

中 村 満 義



この度、葉山会長の後を受けまして、(財)下水道新技術推進機構の会長を仰せつかりましたことは大変光栄なことと存じております。関係各位の皆様におかれましては、前会長同様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、百年に一度の経済危機の中、世界経済は未曾有の混乱の中にありましたが、このところ世界各国政府の懸命の努力の元に、やや持ち直してきた気配がうかがわれております。下水道事業におきましては、平成20年度から始まった社会資本整備重点計画のもと、近年激化している集中豪雨の頻発や老朽管路の破損による道路陥没の多発、温暖化、資源エネルギー問題の深刻化など、新たな課題に機動的、戦略的に取り組み始めております。これらに加えて、人口減少社会の本格的到来や公共団体の財政状況悪化など、下水道を取り巻く社会経済状況はめまぐるしく変化しております。

このような状況を踏まえまして、下水道事業の位置づけは、まさに市民と地域社会の「安心・安全」「良好な環境」「快適・再生」を実現するために下水道の有する機能を「排除・処理」から「活用・再生」に転換し、市民生活を支えるライフラインとして事業の継続性を確保していく必要性がますます増加しております。

(財)下水道新技術推進機構におきましては、設立以来17年目を迎え、関係各位のご尽力とご協力により、産学官の連携のもとに構築された研究体制のもと、下水道の抱える多くの課題に対して、的確に対応してまいりました。今後も、下水道事業が「暮らし・安全・環境・活力」の目標達成に向けて機動的に執行されていくなかで、(財)下水道新技術推進機構として一層の貢献をしてまいりたいと考えております。

微力ではありますが、私といたしましても各方面から本機構へ寄せられる期待に応えるべく、本機構の設立趣旨に則り、産学官の連携のもと「新技術の橋わたし」の役割を担い、全力を尽くしてまいり所存でありますので、皆様のご理解、ご協力を切にお願いいたします。

まずは本誌にて会長就任のご挨拶とさせていただきます。